受付番号	19		
許可番号	大歯医倫　第 111114 号		
研究課題名	トルコ鞍の形態と不正咬合の関連について		
研究責任者	松本　尚之	申　請　者	槇野　秀一
研究終了日	2023 年 3 月 31 日		
所　　属	歯科矯正学講座	所　　属	歯学研究科 歯科矯正学専攻
職　　名	主任教授	職　　名	大学院２年生

申請の概要

トルコ鞍の中心は、Björk（1947）によってＳ点として定義され、頭部計測分析の中心的な基準点として使用されている。また、トルコ鞍の前壁の輪郭は顔面頭蓋の成長発育について、その長さ、深さ、および直径などが、1950 年代および 1960 年代から評価の対象となってきている。

トルコ鞍の形態異常・架橋は、歯の萌出異常、骨格性の不正咬合、片側性口唇口蓋裂やダウン症などの症候群、と関連があると報告されている。

頭蓋底に位置するトルコ鞍は、その石灰化の進行過程がその発生学的起源を同じとすることから、上顎骨、口蓋骨、前顔面部の発育野への遺伝的要因の指標となり得る。なかでもトルコ鞍の石灰化や bridge の形成異常については、蝶形骨の発育異常が大きく関与するとの報告がある。しかしながら、日本人におけるトルコ鞍の形態と不正咬合の関係については、これまで報告はなく、また、骨格性不正咬合との関係性についての研究も行われていない。

今回の研究では、成長発育異常についての遺伝的要因の指標としても用いられているトルコ鞍に注目し、成長発育における、顎顔面形態並びに不正咬合との関連について解明することを目的とする。

本研究によって、トルコ鞍の石灰化や bridge の形成異常と成長発育異常の関連性について明らかになれば、患者の矯正治療において、今後、より正確な診断が可能となる。また、治療の安全性が高くなり、より良い治療結果及び予後が期待できる。

今回の研究では、成長発育異常についての遺伝的要因の指標としても用いられているトルコ鞍に注目し、成長発育における、顎顔面形態並びに不正咬合との関連について解明することを目的とする。

本研究によって、トルコ鞍の石灰化や bridge の形成異常と成長発育異常の関連性について明らかになれば、患者の矯正治療において、今後、より正確な診断が可能となる。また、治療の安全性が高くなり、より良い治療結果及び予後が期待できる。